

地方 紀民 行鉄

沿線の魅力を語る

柔らかな津軽弁に

途中下車を誘われる

どこに行こうか

何を観ようか

目一杯楽しむためには

列車の時刻に要注意

津軽鉄道株式会社



気

温30度の東京（6月末の取材時）から北に約4時間半。青森県五所川原市は、さすが東北かなり涼しい。霧雨の舞う空模様、せいもあってか、なんならちよつと肌寒い。今日はこれからどこへ行くか。思案するのは津軽鉄道津軽五所川原駅のホームではなく隣接する津軽鉄道本社ビル1階。

発車時刻に要注意

津軽鉄道本社ビルの1階には、コミュニティ・カフェが入っている。列車の出発時刻まで、ここで軽く腹ごしらえ。

注文したのは看板メニューの津鉄汁。「熱いから気を付けて」の言葉と共に運ばれてきたそれは、「ゴボウや舞茸、鶏肉に丸いすいとんが入った、しょうゆ味のあっさりとした汁物。モチモチのすいとんを頬張りながら、時刻表を確認する。

津軽鉄道は、ほとんどの時間帯で1時間から1時間半に1本程度の運行。降りたい駅見たい場所と列車の時刻をよく考えて動かないと時間がなくなる。初めにどこに向かうのが効率的か、あれこれ考えてはみたものの、これという行程が思いつかない。ぐずぐずしているうちに列車の出発時刻が迫ってくる。取りあえず一番見たいものを一番に見に行くことにして、カフェを出る。

津軽鉄道では交通系ICカードは使えないので、有人駅から乗るときは行き先までの切符を買う。無人駅から乗ったときは降りる際に車内で現金精算する。始発駅である津軽五所川原駅は有人駅。窓口で切符を買ってホー

ムに向かう。久しぶりに手にした硬券に記された行き先は、芦野公園駅。

観光案内に聞きほれる

「皆さんこんにちは」。列車が津軽五所川原駅を出発すると、車内後方から女性の声が聞こえてくる。津軽鉄道では、観光アテンダントさんが乗務する列車に当たると、車内で沿線の観光案内を聞くことができる。

雨降りでは今日はまったく見えない岩木山は、見る場所によって形が変わる山であること、乗降者数が津軽鉄道で最も少ない毘沙門駅は、「日本一かっこいい『駅の名前』ランキング」で全国1位になった駅であること、金木駅の近くには作家・太宰治の生家があること……。柔らかな津軽弁の観光案内は、知らない情報も多くて聞きごたえがある。終点・津軽中里駅まで聞いていたくなったけれど、そこは我慢。「芦野公園駅近くは、春は桜のトンネルになりますが、今は緑のトンネルです。桜の季節に、ぜひまたおいでください」とのアナウンスに送られ、列車を降りる。

実は、本当に降りたかったのは芦野公園駅の一つ先の川倉駅。ところが、津軽五所川原駅で乗れたのは毘沙門駅・川倉駅・深郷田駅を通過していく列車で、川倉駅に停車する次の列車は約1時間後。地図アプリで調べた芦野公園駅から川倉駅までの徒歩による所要時間は25分。列車を待つより早い。ということと、ここから気合いを入れて歩く。

目的地は川倉駅から徒歩5分、「一番見たいもの」がある三柱神社。



津鉄汁は、津軽五所川原駅向かい側にあるコミュニティ・カフェ「でる・そーれ」で食べられる。

津軽鉄道

【つがるてつどう】

総延長 20.7km。津軽五所川原駅から津軽中里駅までを結ぶ。だるまストップを設置したストップ列車（冬季限定）が人気。





三柱神社には2体の鬼コがいる。津軽地方には40体くらいの鬼コがいるとか。

三柱神社まで続く田んぼの中の一公道。突き当りの林の中に三柱神社がある。

津軽鉄道の硬券。鉄の形が駅によって違う？

鳥居の鬼コを知っていますか？

津軽地方には「鳥居の鬼コ」というものがあるという。神社の鳥居の上部に設置されている小さな像で、「鬼」とは言うものの、天災や疫病を払ってくれる、むしろ神様のような存在だとか。津軽鉄道沿線では三柱神社等にいろいろらしい。ぜひとも見たい。

降っていた雨も折よく止んで、鬼コを目指してひたすら歩く。芦野公園駅周辺の住宅地を抜けると、三柱神社までは田んぼの中を貫く一本道。田んぼの向こうを津軽鉄道の線路が走り、川倉駅が小さく見える。今、ここに列車が来れば、とてもいい写真が撮れる！けれども、そんな都合よく列車は来ない。一本道を歩き抜け、三柱神社に到着。

さっそく鳥居を見上げると、鬼コが、いない。えっと思つて、すぐ次の二本目の鳥居に目を向けると、いた！鳥居の貫の上、島木を担ぐような恰好をした小さな石像。総髪でも肌を脱いだ姿は、鬼というより修験者のよう。さらに三本目の鳥居の上には、金棒を抱え角を生やした、これぞ鬼といった姿の鬼コが鎮座している。まっすぐ前を見据えている修験者鬼コに対して、鬼の姿の鬼コはこちらを見下ろしてニヤリと笑っているようで、見上げると目が合う。「お前誰だ」と問われているような気がして、「怪しい者ではありません。お参りさせていただけます」と心の中で答えてつづ参拝。すみやかに退散。列車が来ないか横目で見つつ、再び田んぼの道を歩き戻る。芦野公園駅が見えてきたと思つたら、川倉駅の方から来た列車に追い越

される。川倉駅で少し待つて、列車に乗ればよかった。次の列車は、これまた1時間後。仕方ないのでさらに歩いて金木駅に向かう。

金木と言えはあの作家

金木は太宰治の故郷。観光アテンダントさんが紹介していた太宰の生家「斜陽館」は金木駅から5分ほどの所にある。

太宰の作品『思ひ出』や『津軽』の中には、子守りの「たけ」やお手伝いさんたちの存在が書かれていたけれど、本当に裕福な家庭に生まれ育った人だったんだと、斜陽館を見て実感する。広々とした土間や茶の間があるかと思えば、絨毯を敷いた洋間や洋風の階段もある和洋折衷の建物は建築物としても見事。館内には太宰愛用のマントや筆記用具等も展示されている。癖が強いというか、味のある文字で綴られた直筆原稿や手紙もあつて、面白い。斜陽館の周辺には、金木観光物産館や津軽三味線会館、戦時中に疎開してきた太宰が住んでいた離れなど、『思ひ出』や『津軽』に描かれた縁の場所も点在している。地図を片手に巡っていると、時間はあつという間に過ぎて、次第に陽が傾いてくる。残り時間で何をしようか考えて、「鬼コカード」のことを思い出す。津軽地方に点在する鬼コたちを1体ずつカードにしたものが、飲食店や施設で配布されているという。鬼コたちのいる神社は車がないとアクセスが難しい所が多いけれど、鬼コカードの配布場所なら斜陽館の周辺にも結構ありそう。すみません、鬼コカード、貰えますか！



三柱神社の修験者のような鬼コのカードは、芦野公園駅横の「駅舎カフェ」でもらえる。

「大邸宅」といった風情の斜陽館。周辺は平日でも観光客が多い。

芦野公園駅では緑のアーチをくぐって走る。